

# バイオマス混焼施設を5月着工 三重でメタン発酵・堆肥化も 処理能力440t/日、2023年7月稼働へ

## 大栄環境

三重でメタン発酵・堆肥化も 処理能力440t/日、2023年7月稼働へ

大栄環境(本部・神戸市、金子文雄社長、078・857・6600)

大栄環境(本部・神戸市、金子文雄社長、078・857・6600)

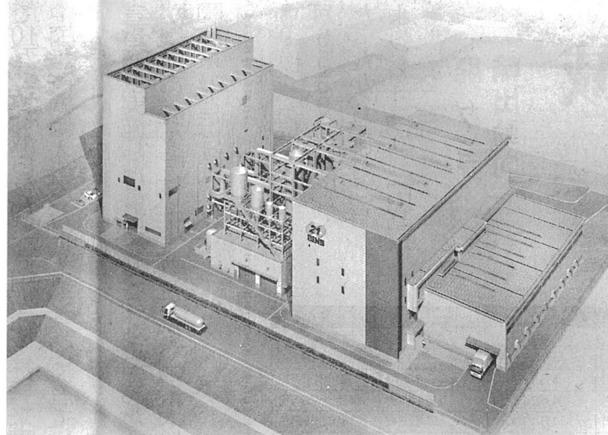
産業廃棄物。プラント設計・施工は三菱重工環境・化学エンジニアリング(横浜市)が担当する。

同施設は、地域から発生する廃木材や食品残渣等のバイオマス資源と多様な廃棄物を混焼するサーマルリサイクルを行う。発電能力は1万1700kW。

家庭約2万3400軒分の使用量に相当する。約7万7000メドウ時。FIT制度を利用して関西電力等に売電するとともに、温熱利用等による地域還元も検討しており、廃棄物処理施設を核とした地域循環共生圏の構築につなげる考えだ。

三重リサイクルセンター敷地内に建設する「三木バイオマスクファクトリー」の建設工事に着手する。総投資額は135億円。2023年7月の稼働を目指す。また、子会社の三重中央開発(三重県伊賀市)の三重サイクルセンター敷地内でも、3月からメタノン発酵処理施設と堆肥化施設の建設を進めている。

三木バイオマスクファクトリーは、一廃・産廃処理施設の建設許可を得た。ストーカ式焼却炉を基設置し、処理能力は1日当たり計440tとなる計画だ。処理品目は、△汚泥△廃油△廃酸△廃アルカリ△廃プラスチック△紙くず△木くず△繊維くず△動植物性残さ△動物系固定不要物△ゴムくず△金属くず△ガラスくず△コンクリートくずおよび陶磁器くず、がれき類△感染性



「三木バイオマスクファクトリー」パース図

0キロワットで、年間発電量は約1万ガラットを見込む。堆肥化施設の処理

能力は同92t。どちらも22年11月の稼働開始を予定している。同社担当者は、これら新施設の整備について、「頑在化する社会課題解決のため、今後も資源循環や地域貢献に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献したい」と話した。

メタン発酵施設は、容量4000立方メートル。発酵タンク2基を擁し、処理能力は国内最大級となる1日当たり320t。食品廃棄物・有機汚泥・廃液等からバイオガスを生成し、リエネルミエ(井上吉一社長)に販売する。発電規模は198